第6回 大分銀行 会社説明会

平成22年12月8日

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

目　次

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

Ⅰ．プロフィール

Ⅱ．平成22年度中間決算の状況

Ⅲ．地域密着型金融の推進について

Ⅳ．リスク・収益管理の状況

Ⅰ．プロフィール

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

（平成22年9月30日現在）

1．本店：大分市府内町3丁目4番1号

2．創立：明治26年2月1日

3．資本金：195億98百万円

4．従業員数：1，674名（嘱託・出向含む：1,877名）

5．店舗数：103カ店

6．預金等残高：2兆4，936億円

7．貸出金残高：1兆6，955億円

Ⅱ.平成23年3月期中間決算の状況

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

1 中間損益概況(単体)
2 資金利益の増減要因分析
3 預金・預り資産の状況
4 貸出金の状況
5 有価証券の状況
6 利回り・利鞘の状況
7 役務取引等利益の状況
8 経費の状況
9 与信費用の状況
10 不良債権の状況(金融再生法基準)
11 自己資本の状況
12 大分県内預貸金シェア
13 今期(平成23年3月期)の業績予想
14 業績予想の前提

1.平成23年3月中間期損益概況(単体)

地域をみつめ 未来をみつめ 大分銀行

(単位:億円)

	21年9月期	22年9月期	増減
コア業務粗利益	213	215	2
業務粗利益	209	213	4
資金利益	186	187	1
役務取引等利益	25	26	1
その他業務利益	▲2	▲0	2
(うち国債等債券損益)	▲2	▲1	1
経費	142	147	5
コア業務純益	70	68	▲2
一般貸倒引当金繰入額①	▲15	—	15
業務純益	83	66	▲17
臨時収支	▲28	▲8	20
不良債権処理費用②	22	1	▲21
株式等関係損益	▲2	▲2	0
経常利益	54	58	4
特別損益	▲8	1	9
貸倒引当金戻入益③	—	2	2
信用コスト(①+②−③)	7	▲1	▲8
税引前中間純利益	46	59	13
中間純利益	30	36	6

コア業務粗利益:前年同期比+2億円

コア業務粗利益=業務粗利益−国債等債券損益

業務粗利益:前年同期比+4億円

資金利益・役務取引等利益により4億円増加。
<主な資金利益の増減要因>
貸出金利息 ▲527M 有価証券利息▲46M
預金等利息 ▲700M

コア業務純益:前年同期比 ▲2億円

コア業務粗利益は増加したものの、従業員数と賞与資金の増加による経費の増加により前年比▲2億円となった。

業務純益:前年同期比▲17億円

業務純益=コア業務純益+国債等債券損益−一般貸倒引当金繰入①

臨時収支:前年同期比+20億円

不良債権処理費用の大幅な減少により臨時収支は20億円改善

信用コスト:前年同期比▲8億円

信用コスト=一般貸倒引当繰入額+不良債権処理費用−貸倒引当金戻入益

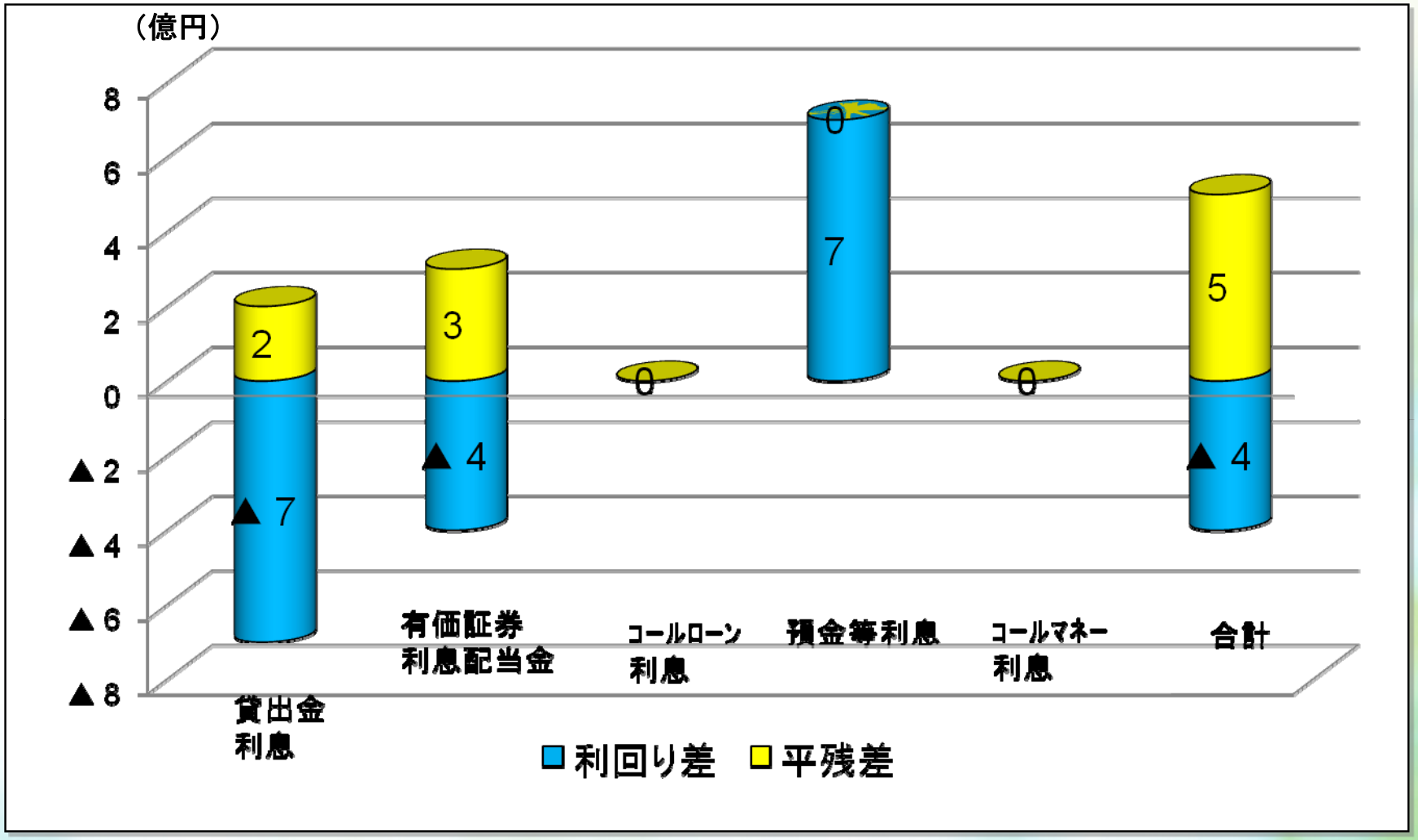
中間純利益:前年同期比+6億円

信用コストの減少により中間純利益も回復。

2. 資金利益の増減要因分析

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

資金利益は預金等利息の減少分で貸出金利息の減少分をカバー。

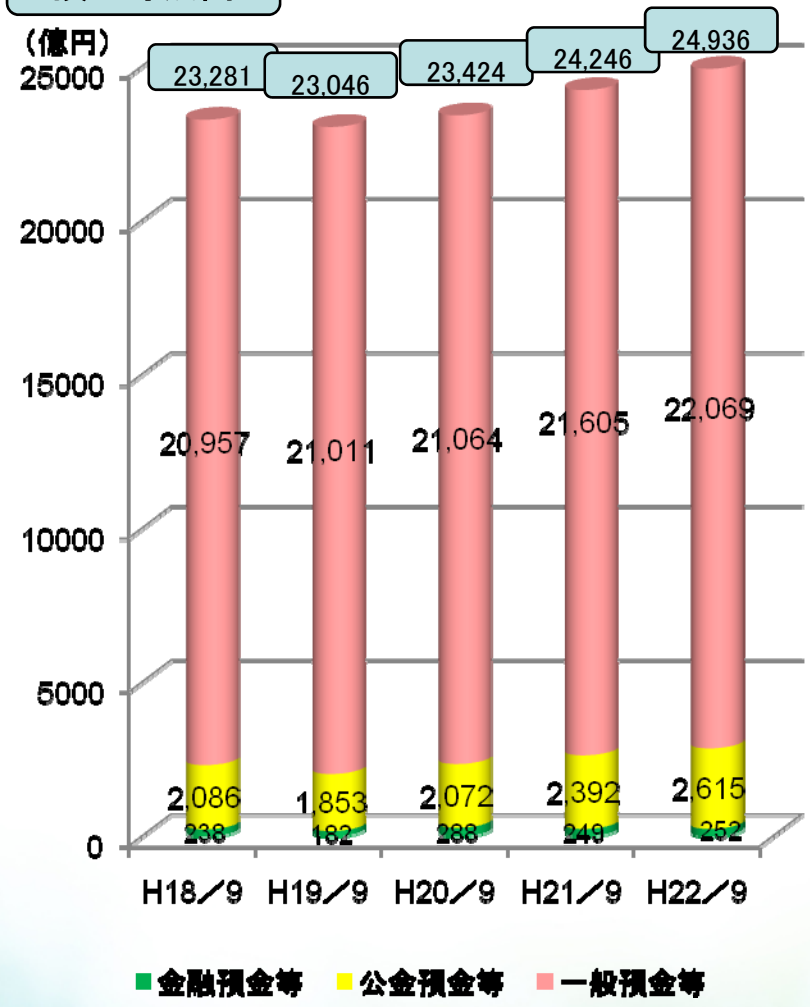


3. 預金・預り資産の状況

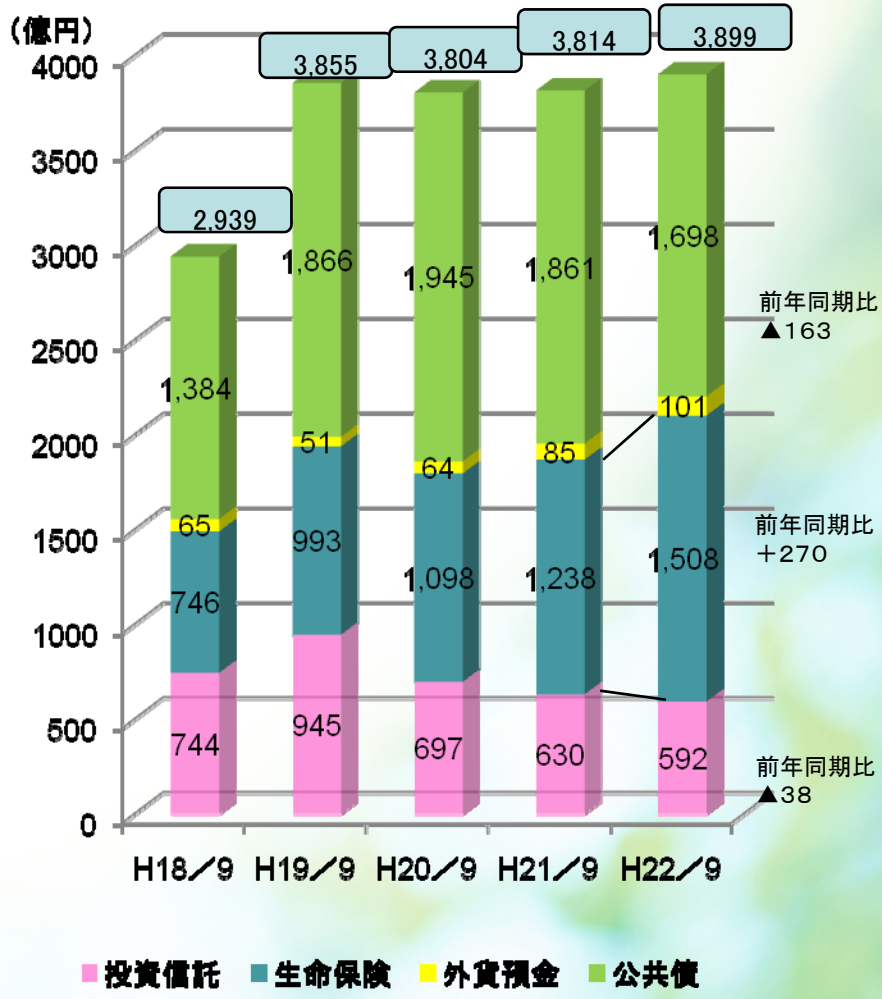
地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

預金等残高は一般預金の増加により前年同期比690億円増加。預り資産は公共債の減少を生保がカバー。

預金等残高



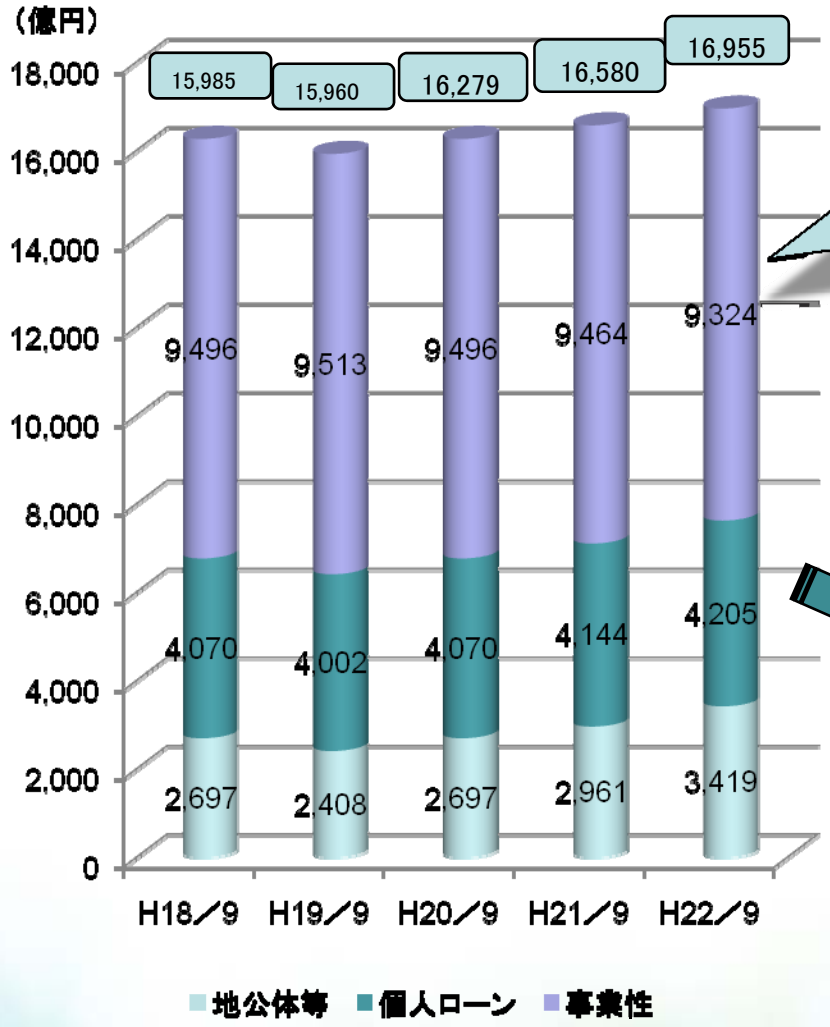
預り資産残高



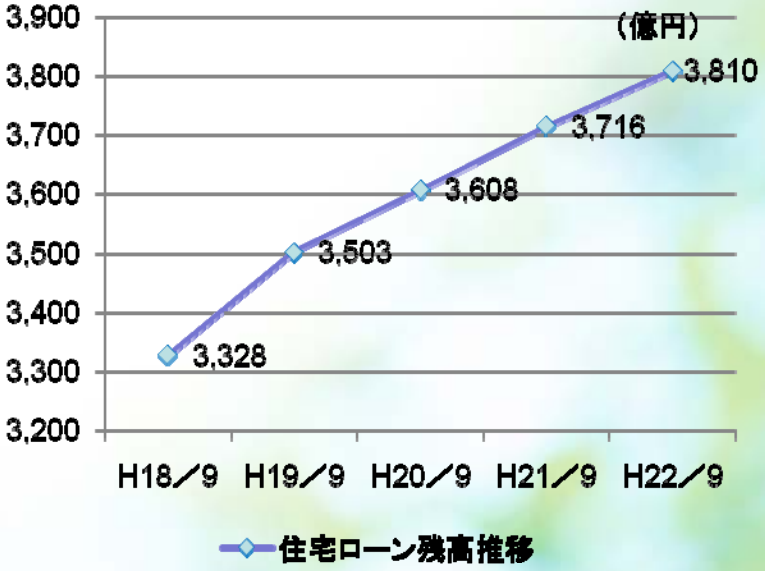
4. 貸出金の状況

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

貸出金残高は、地公体等＋458億円、個人ローン＋61億円により前年同期比＋375億円

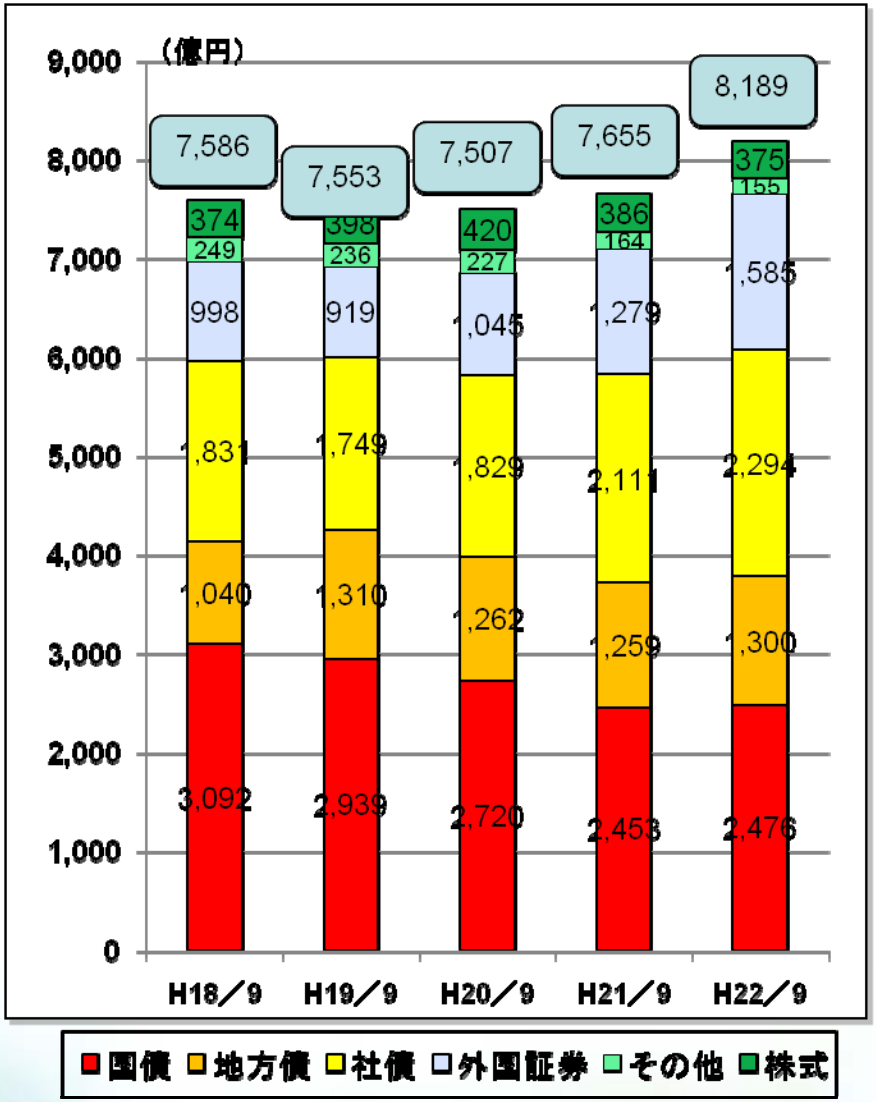


事業性貸出金はH20／9期以降減少傾向
H20／9期の前年同期比：▲17億円
H21／9期の前年同期比：▲32億円
H22／9期の前年同期比：▲140億円
★県内事業性貸出金の増強が課題



5. 有価証券の状況

（１）有価証券残高推移

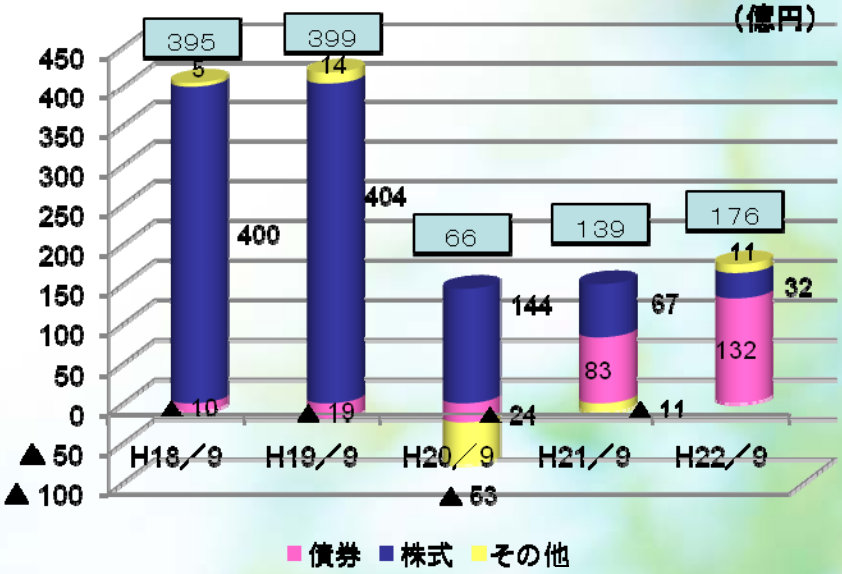


有価証券残高は、預貸金動向による運用資金の増加により＋534億円
証券人財の育成に注力しながら、適切なリスク管理のもと、引き続き有価証券ポートフォリオの健全性と収益性の向上に取組む

（２）円貨債券デュレーションの推移

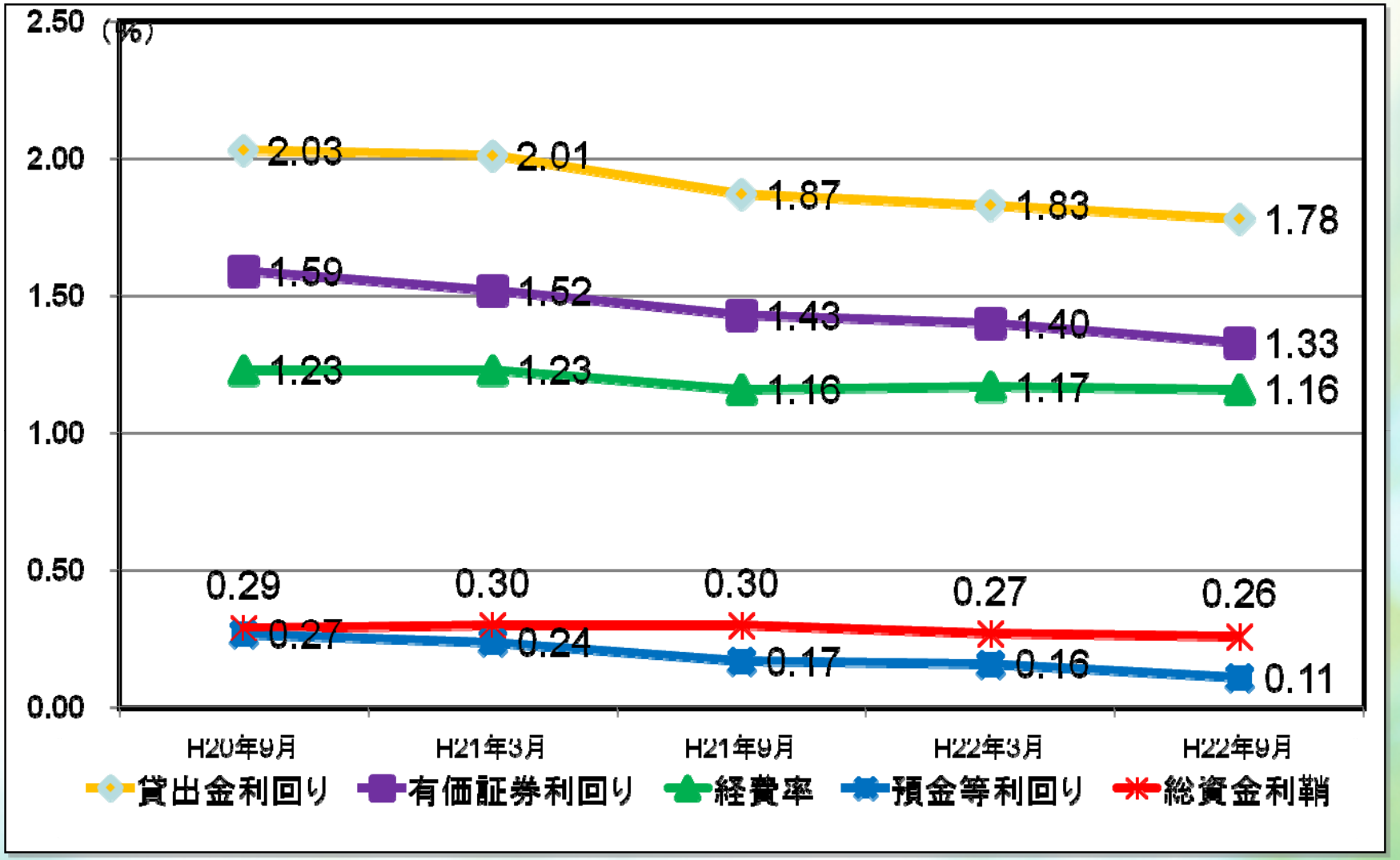
	18年9月	19年9月	20年9月	21年9月	22年9月
修正ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ	2.86年	2.79年	2.60年	2.51年	2.80年

（３）有価証券評価損益推移



6. 利回り・利鞘の状況

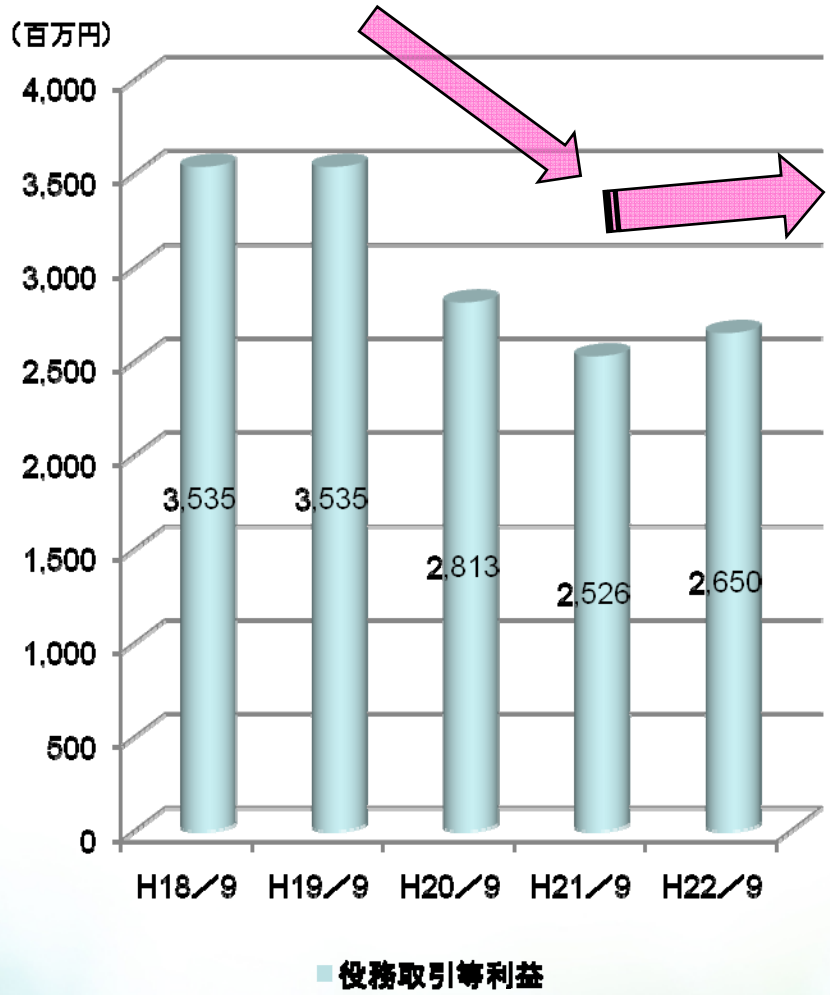
貸出金利回りの低下（▲0.05%）と有価証券利回りの低下（▲0.07%）を預金等利回りの低下（▲0.05%）でカバーできず、総資金利鞘はH22年3月期比▲0．01%となった。

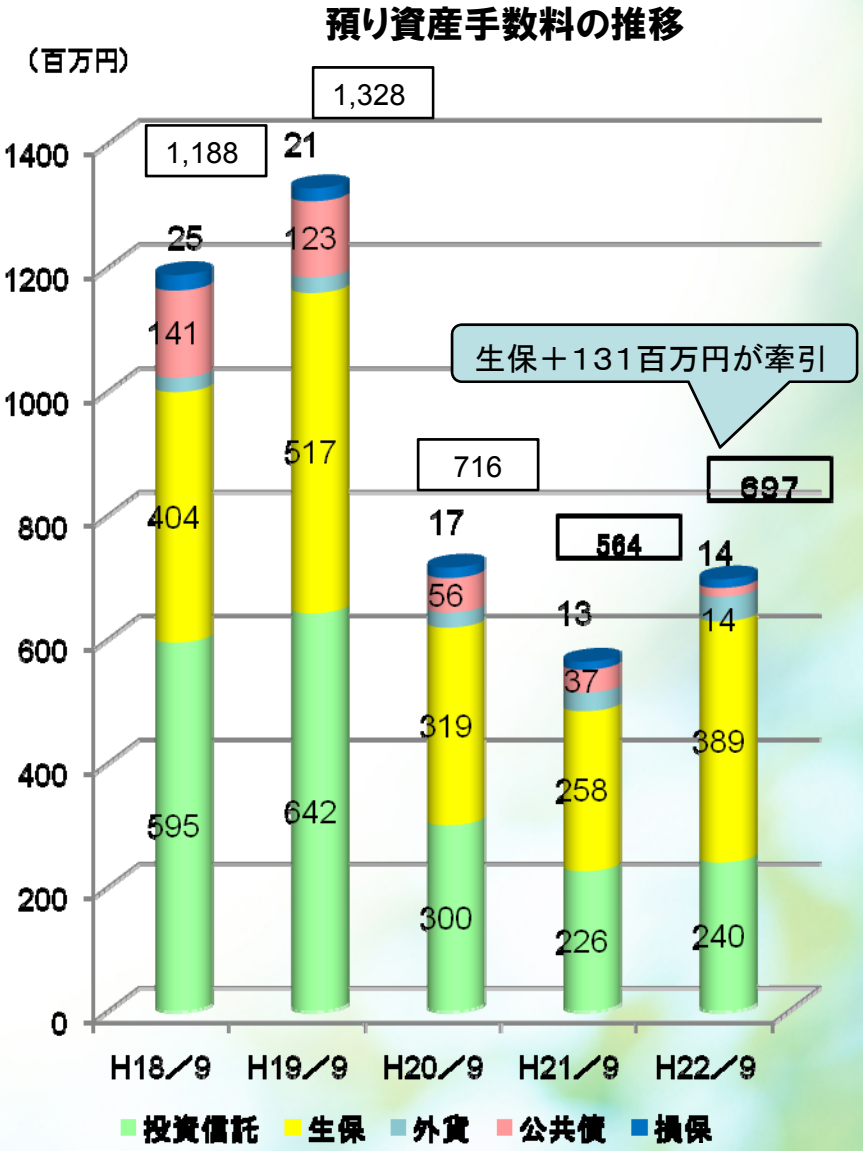


7. 役務取引等利益の状況

役務取引等利益は前年同期比＋124百万円。

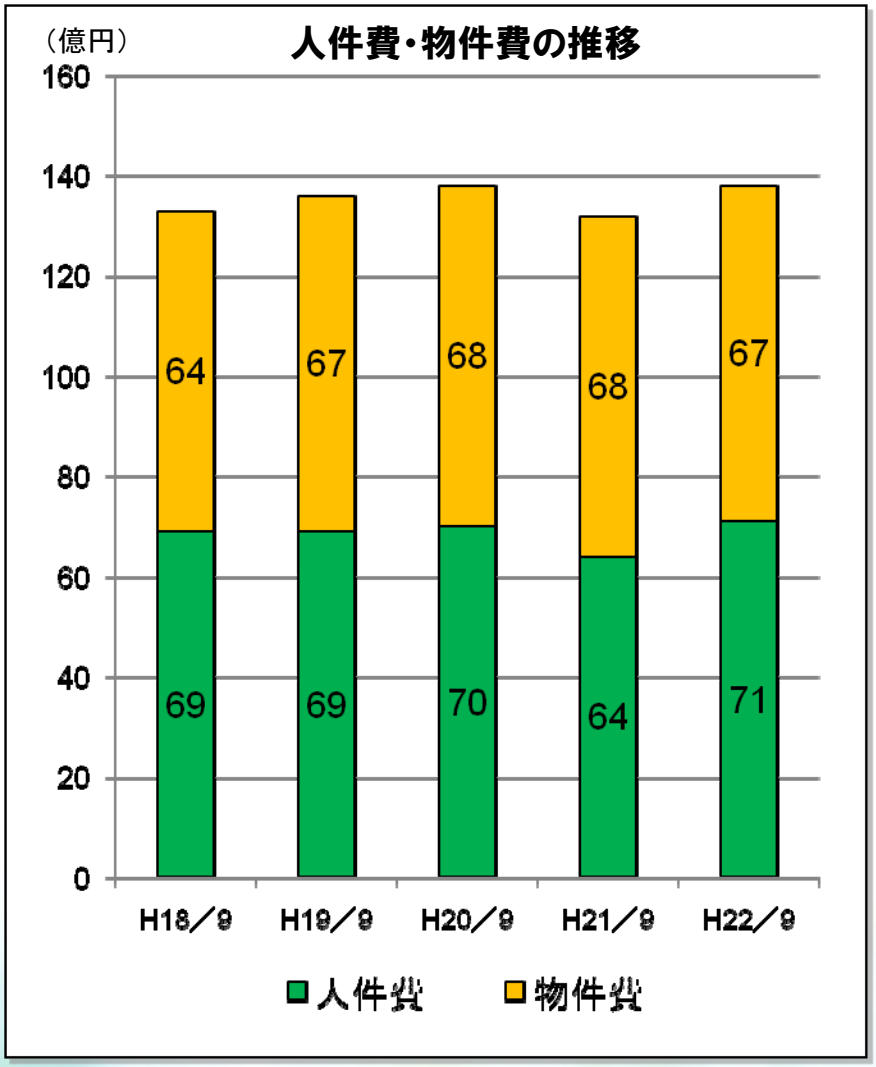
預り資産手数料の増収＋133百万円が主因。



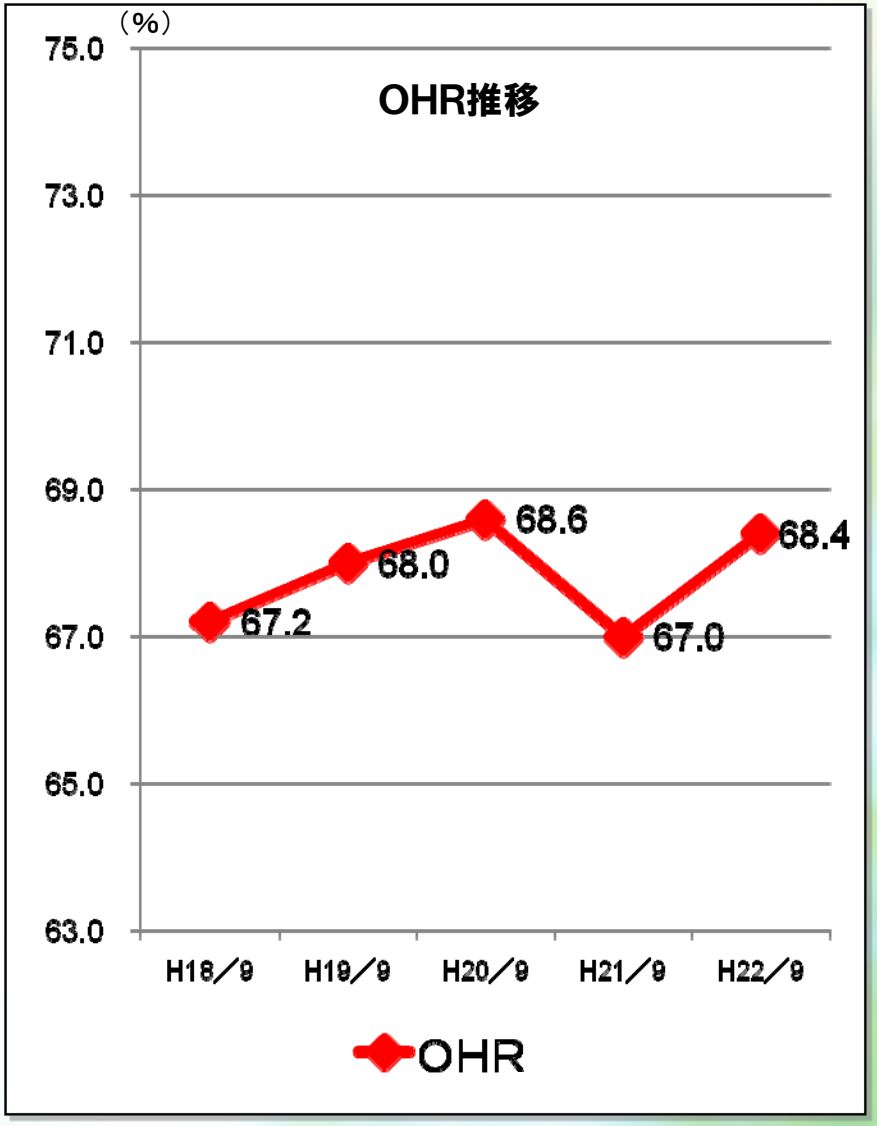


8. 経費の状況

過去5年間　毎年100名以上の採用継続。人件費は従業員数の増加と賞与資金の増加により＋7億円



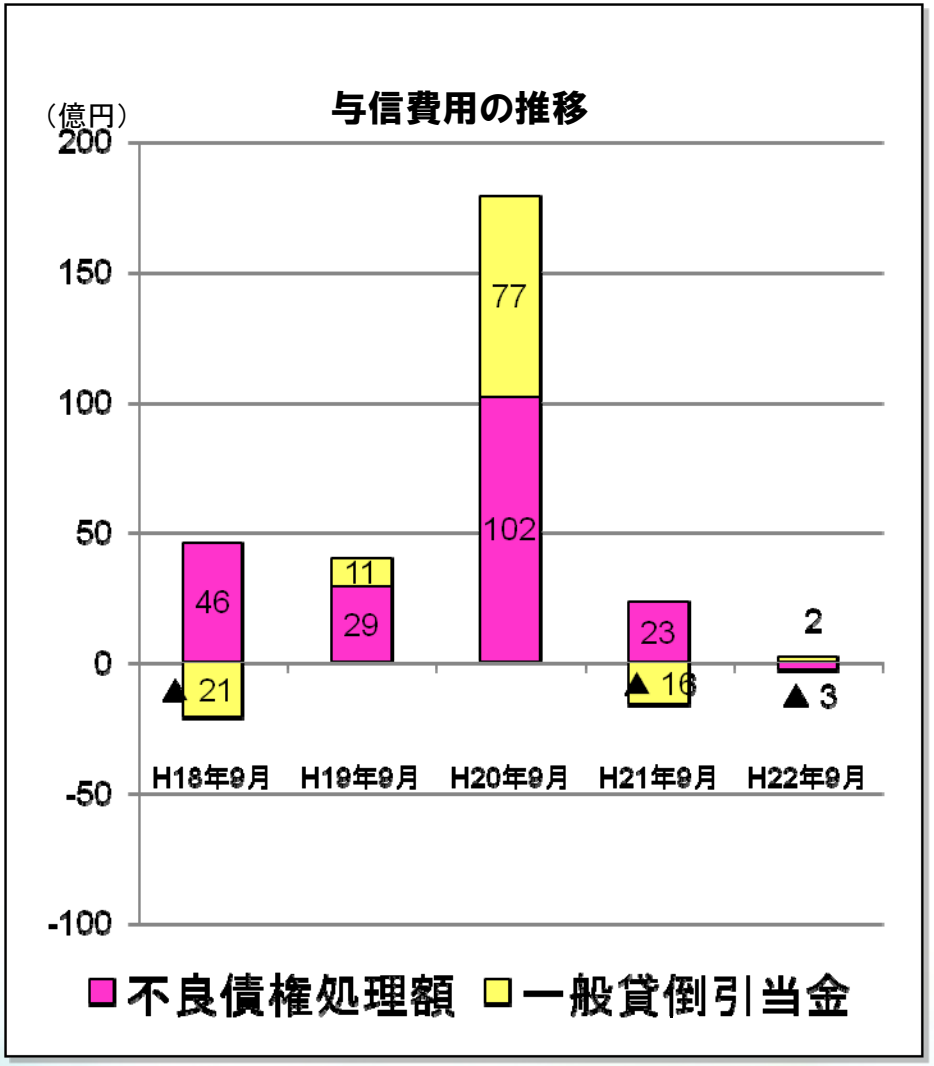
OHRは、人件費の増加により1．4%上昇



9. 与信費用の状況

大分銀行 地域をみつめ 未来をみつめ

与信費用はランクアップの推進や倒産件数の減少により▲1億円



＜与信費用率推移表＞

（単位：%、億円）

	18年9月	19年9月	20年9月	21年9月	22年9月
与信費用率	0.31	0.50	2.19	0.08	▲0.01
与信費用	25	40	179	7	▲1
貸出金平残	15,814	15,903	16,245	16,611	16,863

＜不良債権処理内訳推移一覧表＞

（億円）

	18年9月	19年9月	20年9月	21年9月	22年9月
貸出金償却	0	0	0	0	0
個別貸倒引当金繰入	46	29	99	23	▲4
延滞債権等売却損	0	0	0	0	0
その他	0	0	2	0	1
合計	46	29	102	23	▲3

注）与信費用率＝（一般貸倒引当金額＋不良債権処理額）÷貸出金平均残高

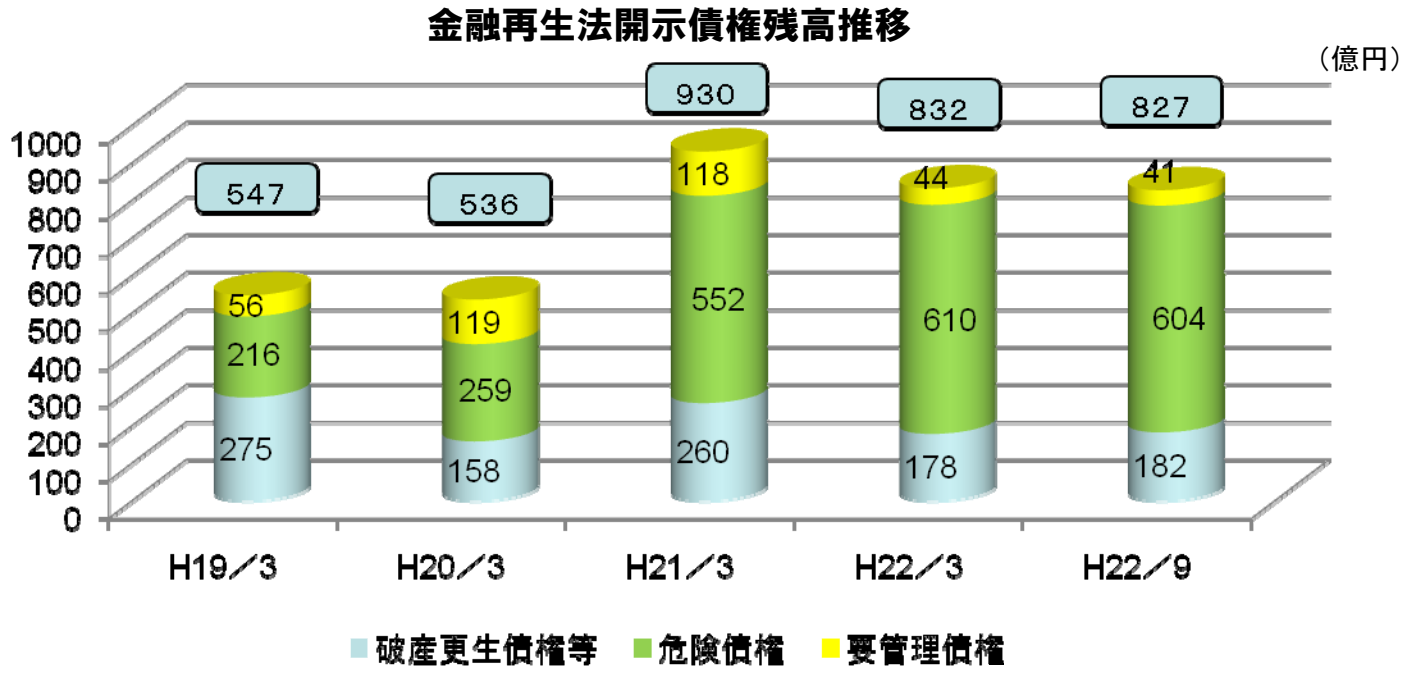
不良債権処理額＝貸出金償却＋個別貸倒引当金繰入額＋延滞債権等売却損＋その他

10. 不良債権の状況（金融再生法基準）

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

金融再生法開示債権残高は着実に減少。（前期比▲103億円）

不良債権比率も前年同期比▲0．66%ﾎﾟｲﾝﾄ低下



不良債権比率の推移				
19年3月	20年3月	21年3月	22年3月	22年9月
3．30%	3．21%	5．43%	4．88%	4．77%

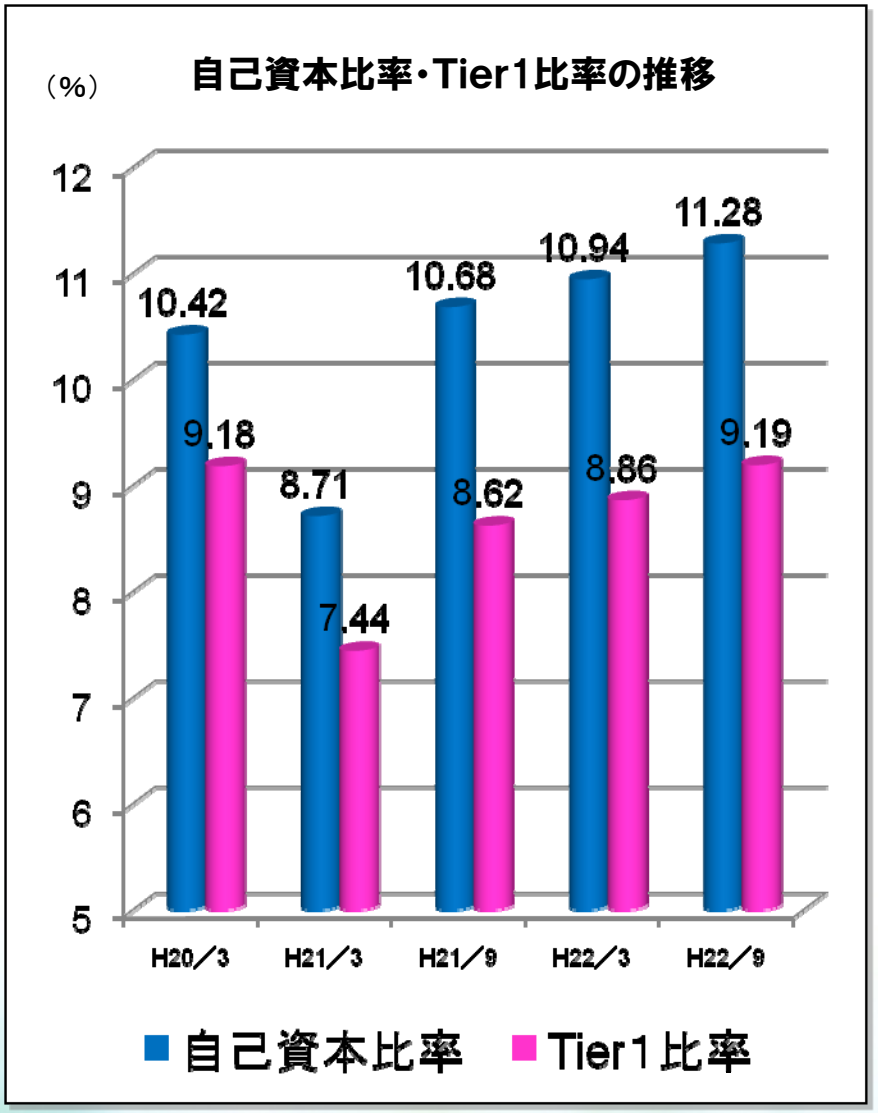
注１）不良債権総額＝破産更生債権及びこれらに準ずる債権＋危険債権＋要管理債権

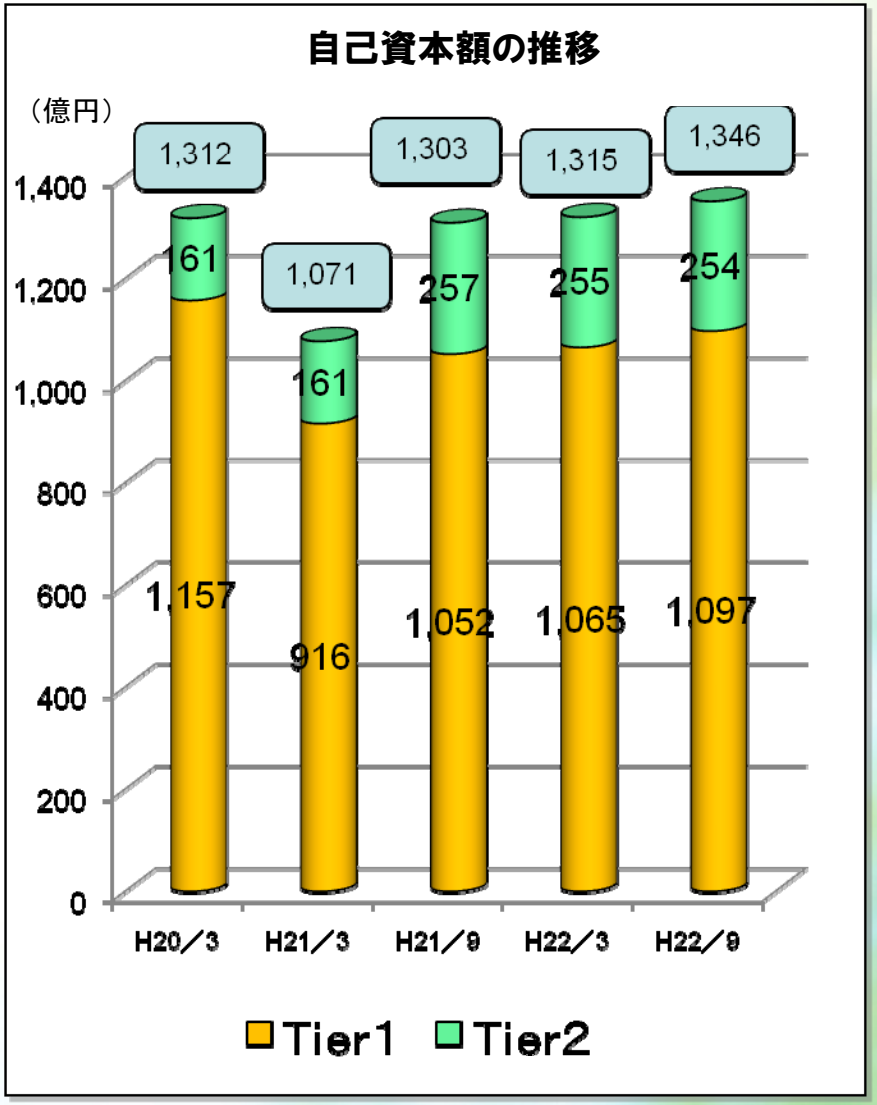
注２）不良債権比率＝総与信に占める不良債権総額の割合

注３）総与信＝貸出金＋支払承諾見返＋外国為替＋貸付有価証券＋仮払金＋未収利息

11. 自己資本の状況

自己資本比率は11．28%、Tier1比率9．19%へ上昇

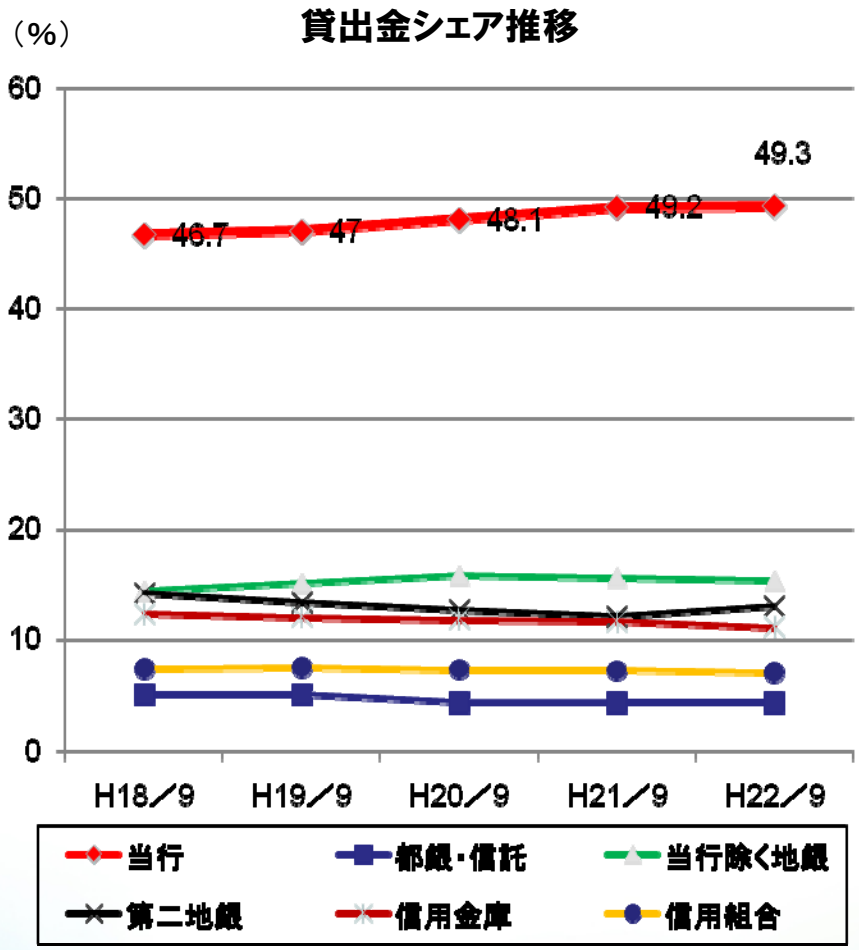




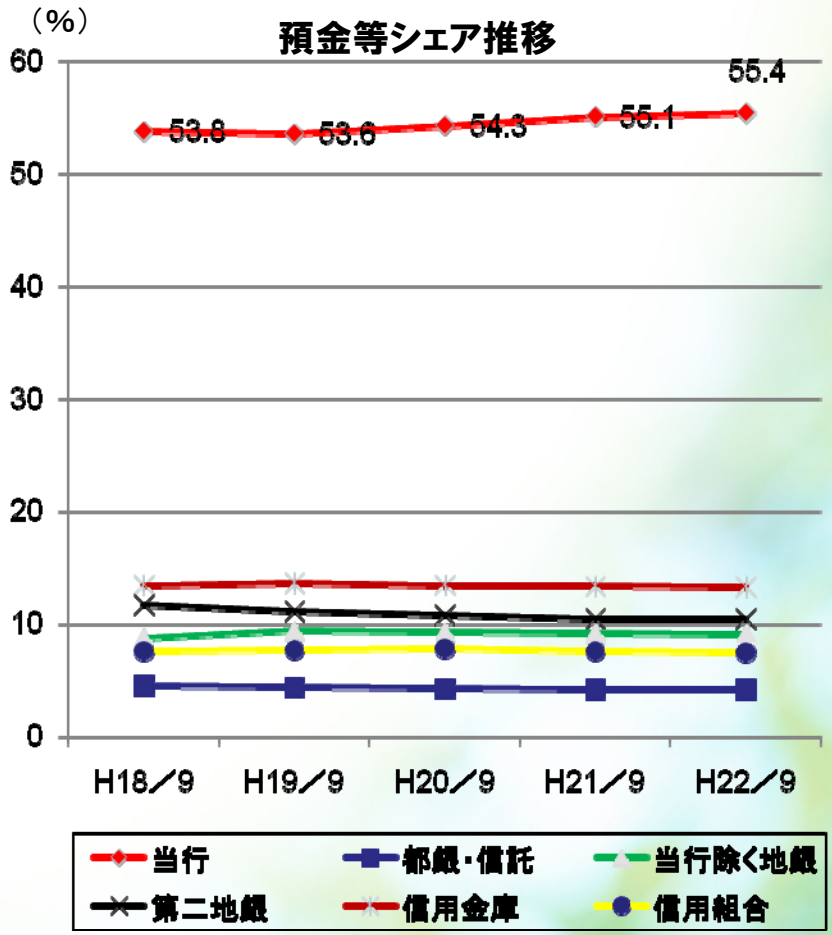
12. 大分県内預貸金シェア

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

県内の貸出金・預金等シェアは、堅調に推移しトップを維持。



（＊政府系金融機関を除く）



（＊郵貯を除く）

13. 今期(平成23年3月期)の業績予想

地域をみつめ 未来をみつめ 大分銀行

（単位：億円）

	22年3月期 実績	23年3月期 （予想）	増減
コア業務粗利益	422	414	▲8
業務粗利益	420	412	▲8
資金利益	368	362	▲6
役務取引等利益	54	52	▲2
その他業務利益	▲2	▲2	0
（うち国債等債券損益）	▲2	▲2	0
経費	286	296	10
コア業務純益	136	118	▲18
一般貸倒引当金繰入額①	▲22	2	24
業務純益	156	114	▲42
臨時収支	▲66	▲23	43
不良債権処理費用②	54	7	▲47
株式等関係損益	▲9	▲6	3
その他臨時収支	▲3	▲10	▲7
（信用コスト①＋②）	31	9	▲22
経常利益	90	91	1
特別損益	▲9	▲2	7
税引前当期純利益	81	89	8
当期純利益	48	51	3

コア業務粗利益：前年度比▲8億円

コア業務粗利益＝業務粗利益－国債等債券損益

業務粗利益：前年度比▲8億円

金利低下の影響による資金利益▲6億円、役務等利益の▲2億円により、業務粗利益は前期比▲8億円を見込む。
経費は人件費の増加に伴い前期比＋10億円を見込む。

コア業務純益：前年度比▲18億円

経費の10億円の増加によりコア業務純益は前期比▲18億円。

業務純益：前年度比▲42億円

業務純益＝コア業務純益＋国債等債券損益＋一般貸倒引当金繰入①

信用コスト：前年度比▲22億円

信用コスト＝一般貸倒引当金繰入額①＋不良債権処理費用②

当期純利益：前年度比＋3億円

業務粗利益の減少や、経費の増加は見込まれるものの、信用コストの減少により、当期純利益は前期比＋3億円を見込む。

14. 業績予想の前提

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

1. 平残予想

（億円）

	平成23年3月期	
	下期	通期
貸出金平残	16,714	16,789
有価証券平残	8,184	8,210
預金等平残	24,617	24,924

2. 運用利回り

（%）

	平成23年3月期	
	下期	通期
貸出金利回り	1.67	1.72
有価証券利回り	1.26	1.30

3. 調達利回り

（%）

	平成23年3月期	
	下期	通期
預金等利回り	0.10	0.11

4. 利鞘

（%）

	平成23年3月期	
	下期	通期
預貸金利鞘	0.36	0.43
総資金利鞘	0.15	0.21

5. 条件

（1）貸出金については、収益性の低い大都市圏での貸出の見直し及び県内事業性貸出の増強を行う。

（2）日銀の政策金利、預金等の利率、短期プライムレートについては、変動がないものとしている。

Ⅲ. 地域密着型金融の推進について

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

1 大分県の課題について

2 大分銀行が目指すべき姿

1. 大分県の課題について

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

円　高

デフレ

大分駅の高架化と駅ビルの新設
大分駅前・駅南の再開発

進出企業への影響

県内中心市街地の活性化

地域経済の停滞

大分県の課題

人口減少　少子高齢化 → 経済規模の縮小化

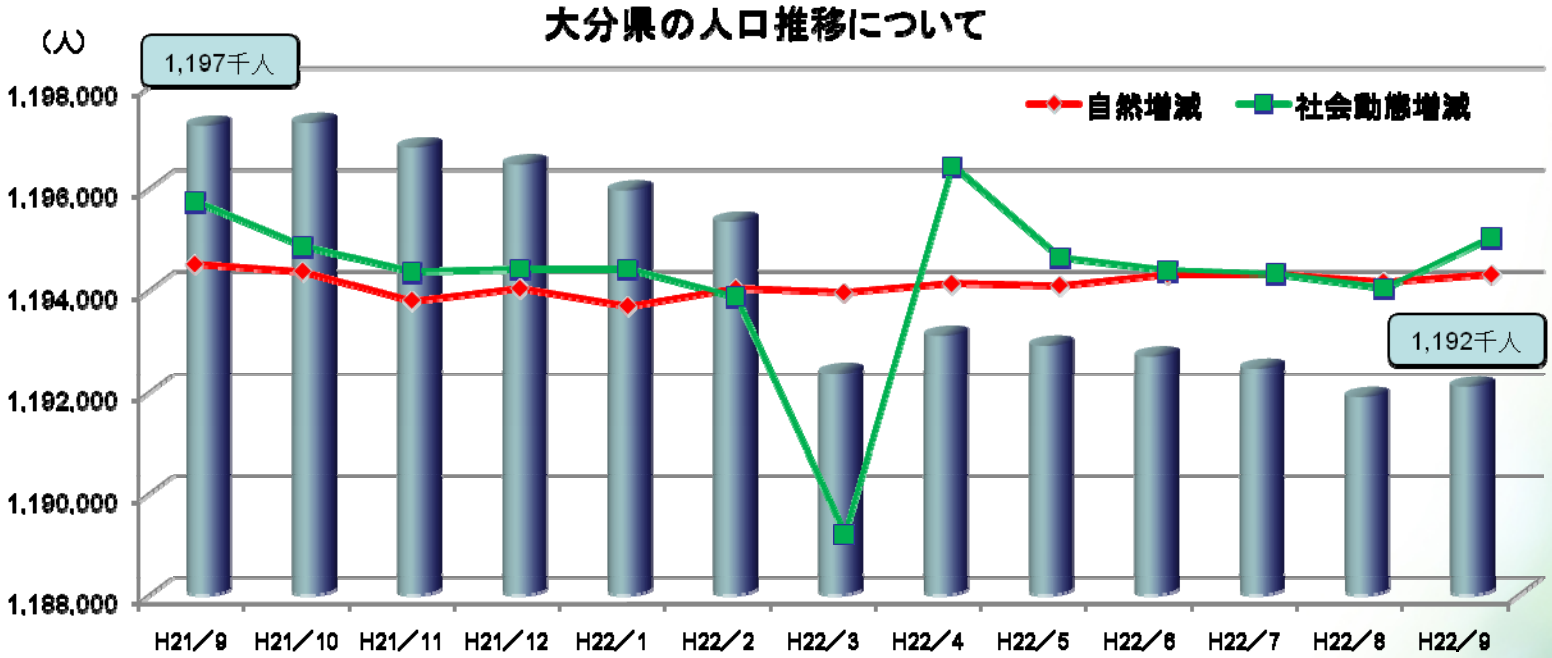
東九州自動車道を主軸とする交通インフラの整備

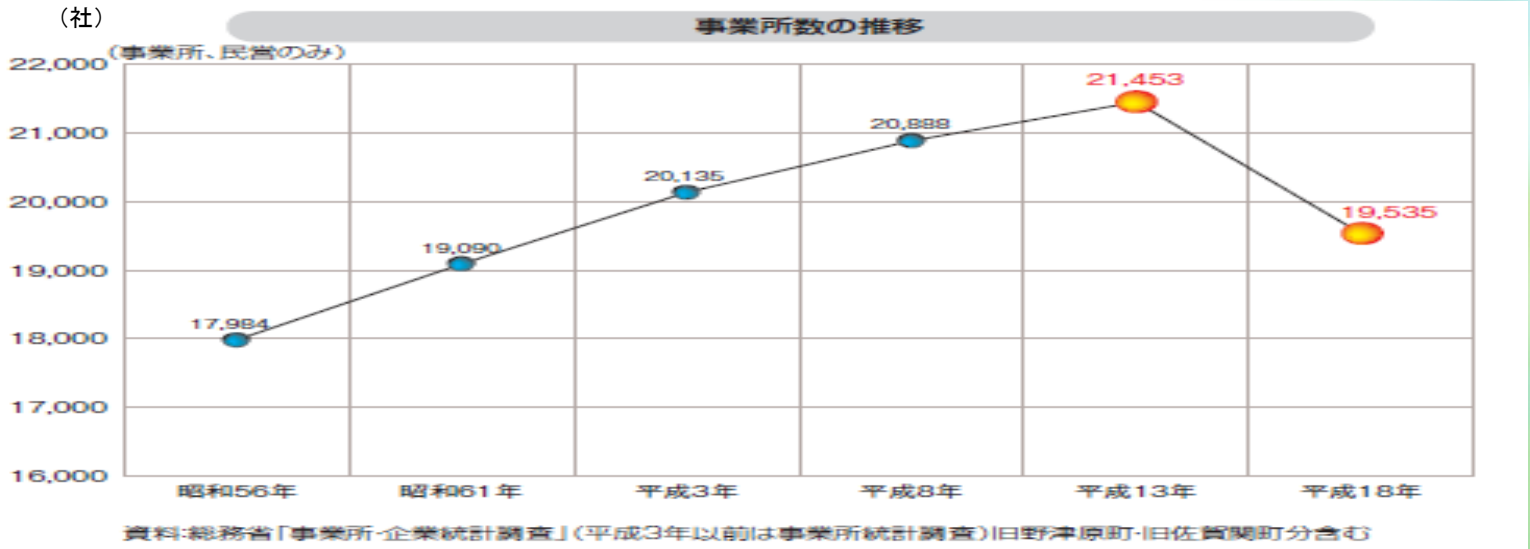
観光産業の活性化を軸とした魅力ある地域づくり

地域外からの人・モノ・金の流入

1. 大分県の課題について

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行





2. 大分銀行が目指すべき姿

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

当行の成長戦略　＝「三方（地域・お取引先・当行）よし」の実現

大分県経済の活性化と発展　⇒　主要営業基盤のパイ縮小防止

魅力ある地域づくり

徹底した地元企業支援

地域が存続するための
地域再生

各種経済団体
大　学

連携

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

連携

行　政

2. 大分銀行が目指すべき姿

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

徹底した地元企業支援

地域が存続するための
地域再生

（1）地域密着型金融の推進
＝好況時も不況時も徹底してお取引先を支援していく＝

①当行のネットワークを活用し、お取引先の売上高改善支援を推進する。
＊当行を介在させた新たな商流の活性化を目指す。
H22年度4月：「ビジネス支援チーム」スタート（4月：6名→9月：12名）
＜ご参考＞H22. 4～9月の活動実績
商談実施件数：156件（うち商談成立実績：17件／41M　貸金対応実績：589M）

②法人営業体制の強化。
＊お取引先の活性化のため、お取引先との接点を増やしリレーションを強化する。
（法人営業は4月以降36名増）

③経営支援活動の推進
＊経営が低迷しているお取引先への積極的な経営改善支援

④個人営業の効率的推進
個人営業の集約（ローンプラザの再編・資産運用プラザ新設検討）
個人ローン専担者と資産運用専担者の配置

2. 大分銀行が目指すべき姿

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

徹底した地元企業支援

地域が存続するための
地域再生

⑤適正収益の確保
＊全店に「ソリューションビジネス担当者」を設置。
＊金利競争が避けられない場合は複合取引により黒字採算を確保する。

⑥最終的に長い取引を目指す
＊事業継承（経営者の高齢化対策＝後継者育成）、M＆A、新しいビジネスモデルの提案
100年以上取引の推進（経営転換期での早めのアドバイスで経営継続を支援）
＊強固なリレーション構築による業況実態把握と経営課題への適切なサポートで
お取引先の活性化と信用コスト増加防止を実現。

（2）広域・国際経済の活性化（中国・東南アジア）

①商談会の継続実施（新しいビジネスモデル構築のお手伝い）
②留学生の活用化（国際業務推進チームの発動）

（3）人財育成

①証券人財の育成
②融資人財の育成
＊すべては「人財」からスタートする
＊ワークライフバランス
とともに積極的な推進を図る

2. 大分銀行が目指すべき姿

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

魅力ある地域づくり

（1）中心的な市街地の活性化への協力・支援

①大分駅の高架化と駅ビルの新設（大分駅前・駅南の再開発）
②県内中心市街地の活性化
③観光業との連携・変革提言活動（国外・県外からの集客）

（2）スポーツ・文化支援活動

①「大分銀行ドーム」のネーミングライツ取得と各種活動の支援
②N響・アルゲリッチ音楽祭の協賛
＊若者が「大分」に定住するには熱中・熱狂できるスポーツ・文化活動が必要。

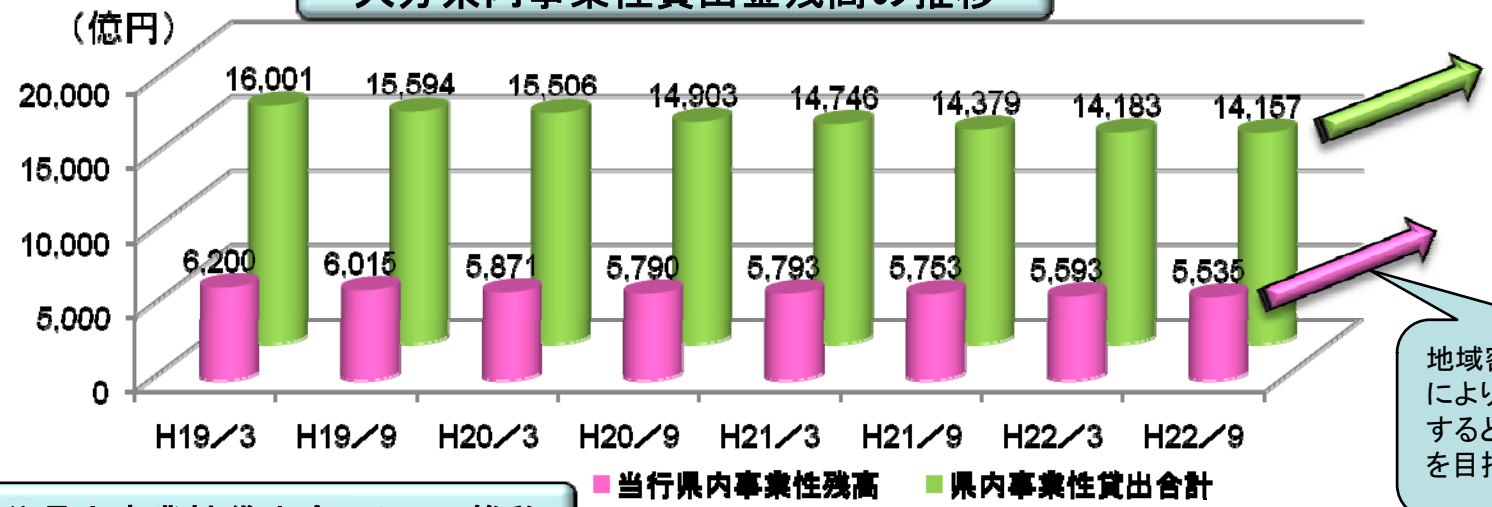
（3）地域貢献・環境保全活動

①CSRの一環として活動を継続する。
②環境にやさしい店舗づくり、エコカーの導入

2. 大分銀行が目指すべき姿

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

大分県内事業性貸出金残高の推移



地域密着型金融の推進によりパイの縮小を防止するとともにシェア拡大を目指す

大分県内事業性貸出金のシェア推移

（%）

	H19／3	H19／9	H20／3	H20／9	H21／3	H21／9	H22／3	H22／9
当行	38.7	38.6	37.9	38.9	39.3	40.0	39.4	39.1
都銀	4.8	4.8	4.5	3.5	3.5	3.6	3.8	3.7
地銀（当行除く）	19.1	19.0	19.5	20.0	19.6	19.5	19.3	19.1
第2地銀	14.2	14.4	14.3	13.3	13.1	12.3	13.1	13.8
信金	12.7	12.7	13.6	13.9	14.1	14.2	14.0	14.0
信組	10.5	10.5	10.3	10.4	10.4	10.4	10.4	10.3

Ⅳ. リスク･収益管理の状況

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

1 資本の活用状況

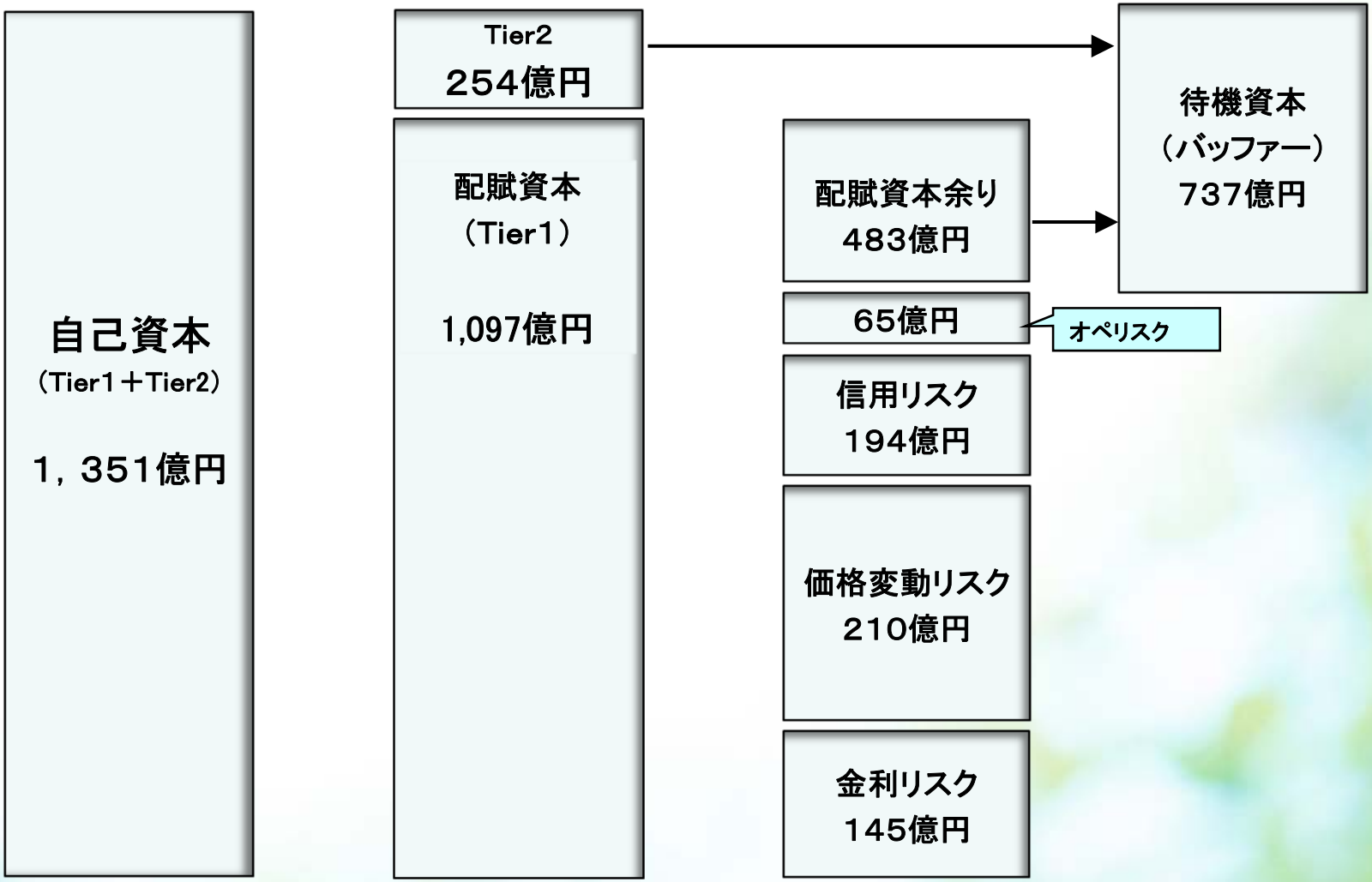
2 金利リスクの状況

3 金利上昇時の資金利益シミュレーション

1. 資本の活用状況（平成22年9月末）

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

信用リスク	金利リスク	価格変動リスク	オペレーショナルリスク
保有期間1年 信頼区間99%	保有期間3カ月 信頼区間99%	保有期間6ヶ月（政策投資株） 保有期間3カ月（その他） 信頼区間99%	基礎的手法



2. 金利リスクの状況

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

アウトライヤー基準（単体：バーゼルⅡ）

（百万円）

	①損失額	②Tier Ⅰ ＋Tier Ⅱ	①÷②アウトライヤー比率
平成22年9月末基準	14，005	135，122	10．365%

【前提条件】

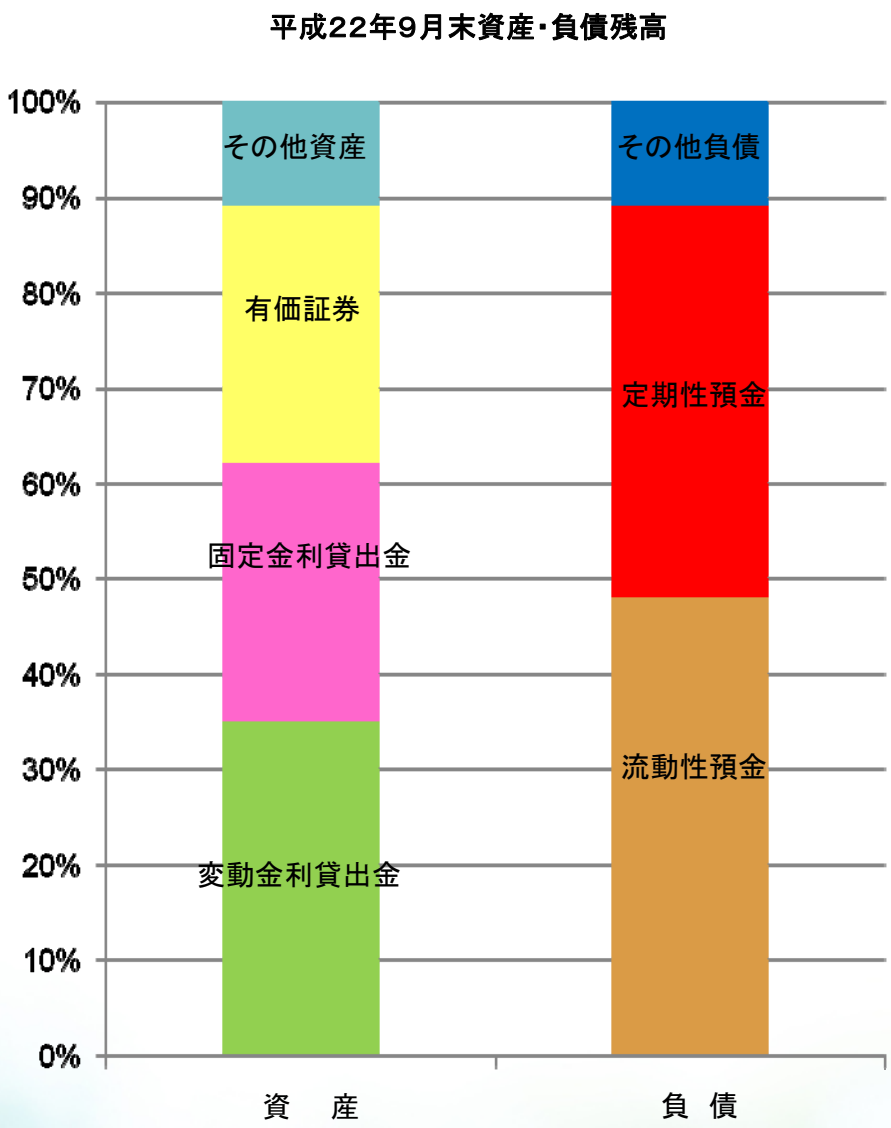
コア預金

平成22年9月末基準で、平均期間2．65年の取引として扱っております。
（コア預金は21年3月期より内部モデルを使用しています）

ストレス的な金利変動シナリオ

99%の信頼区間に相当する実際の変動データをストレス的な金利変動シナリオとしています。
（99%タイル値）
（ﾄﾞﾙ・ﾕｰﾛ金利については、200BPVにて計測）

3. 金利上昇時の資金利益シミュレーション



金利上昇

シナリオ分析

シミュレーションの前提	
①金利シナリオ	年間で短期金利が0．25%、長期金利が0．5%のピッチで金利上昇する。
②資金シナリオ	残高は一定
③シミュレーション対象	円金利に感応する資産・負債（円貨預貸金、円貨有価証券、円貨スワップ、円貨コールローン等）
④その他	貸出金の金利は、全て約定日に基準金利改定後の新金利にフルスライドする。 ヘッジオペレーションは考慮しない。

金利上昇時の資金利益の変化額

（単位：億円）

	1年目	2年目	3年目
資金利益	342	348	364
貸出金利息	302	321	346
有価証券利息	81	85	97
預金等利息	40	59	80

本資料についての補足

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであります。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

株式会社大分銀行 総合企画部 広報CSRグループ

担当：小野・幸

TEL：097-538-7617　FAX：097-538-7620

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ：http//www.oitabank.co.jp/

以 上

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行

地域をみつめ 未来をみつめ
大分銀行